

## 令和元年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	84	学校名	静岡県立新居高等学校(全日制)	校長名	野村賢一
------	----	-----	-----------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生命が守られ、安全で安心して生活できる校内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>命を大切に、思いやる心を持ち、判断力、行動力のある生徒が育つ。</li> <li>「いじめ」を感じる生徒が早期に発見され、適切に対処される。</li> <li>危険箇所が未然に補修される。</li> <li>多様な状況に対応した訓練ができる。</li> <li>地域防災への意識が高まり参加率75%を超える。</li> <li>交通マナーが向上し、交通事故10件以下が継続され、違反が10%以上減少する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心を育てる講義(薬学講座、思春期講座、こころメンテナンス講座(自殺防止))や集団活動(1年宿泊研修、文化祭、体育大会等)を実施した。</li> <li>「いじめ」や「ひやり、はっと」等、生徒の心の状態を調査するアンケートを実施した。</li> <li>校内施設の定期的な点検を3回実施した。</li> <li>防災訓練を年2回実施するとともにより実践的なものにした。</li> <li>地域防災への参加を促した。参加率 H30(71%) R1(70%)</li> <li>交通安全教室の年度当初の実施と継続的な交通安全指導を実施した。また、事故にあった場合や違反した場合の学校への報告を徹底させた。 交通事故 H30(12件) R1(8件) 交通違反 H30(21件) R1(63件)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートだけでなく、常日頃から生徒の行動を注視し、いじめに繋がる行動を発見し、いじめを未然に防ぐ意識を全職員の共通認識が持てた。</li> <li>委員会活動を継続的に活性化し危険箇所の把握や清掃の徹底を図る。</li> <li>校舎に入れない場合を想定した避難場所についても考える機会がもてた。</li> <li>地域防災参加率を高めるとともに、さらに防災意識を向上させる方策を検討したい。</li> <li>交通事故、交通違反等の減少に向け、引き続き交通安全に対する意識を徹底させたい。</li> </ul>
イ	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、礼儀、正しい身なりなど、当たり前のことがきちんと身に付く。</li> <li>問題行動が未然に防がれ落ち着いた学習環境が維持される。</li> <li>生徒指導件数10%以上減少。</li> <li>生徒指導への保護者の理解度80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年集会、全校集会を定期的に実施した。</li> <li>「新居高ハンドブック」に基づく、保護者、教職員が連携した指導を実施した。</li> <li>登校指導と授業時間も含めた校内巡視を実施した。</li> <li>問題行動41%減</li> <li>生徒の人権に配慮しその特性に応じた指導を心掛けた。 生活指導 H30(94%) R1(96%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内での生徒の生活態度は全体的に落ち着いている。</li> <li>校外でのSNS使用上の問題行動などの改善が必要であり、指導方法等を検討していきたい。</li> <li>問題行動発生件数は減少した。引き続き生徒の心の成長を促す指導方法を検討していきたい。</li> <li>来年度以降も海岸清掃を本校の伝統行事として、</li> </ul>

		<p>以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールについて自ら考え行動できる。</li> <li>・奉仕活動に全員が参加し奉仕の心が育つ。</li> </ul>	<p>部活動指導 H30(91%) R1(91%) 行事指導 H30(82%) R1(89%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールについて考える教育活動を行った。</li> <li>・海岸清掃等の奉仕活動を行った。</li> </ul>		<p>生徒全員で実施し、奉仕活動・環境教育につなげたい。</p>
ウ	<p>確かな学力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態にあった「新居高の授業」づくりが進む。</li> <li>・全員が事前学習をしてテストに取り組んでいる。</li> <li>・学習課題提出 100%</li> <li>・「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合 70%以上</li> <li>・図書館利用者数 5%増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外を対象とした授業公開を実施した。</li> <li>・年間指導計画の作成を通して学習指導要領の目標に沿った授業改善に取り組んだ。</li> <li>・全教科において長期休業中の課題を課し、基礎学力の定着を図った。</li> <li>・基礎学力テストを実施した。</li> <li>・定期テスト前の学習の充実を図った。</li> <li>・提出物を重視するとともに、習熟度に合わせた指導を行った。</li> <li>・生徒の学習課題提出 R1(94%)</li> <li>・生徒による授業評価を実施した。「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合 H30(75%) R1(77%)</li> <li>・言語活動を意識した授業展開に心掛けた。</li> <li>・各教科で作成したマンダラチャートを元に、生徒の学力育成に効果的な授業を実践した。また、教師用のルーブリックを作成し、教師が授業に対して自己評価しやすいよう工夫した。</li> <li>・図書館活用など読書活動の推進に取り組んだ。H30(3%増) R1(2%増)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き長期休業中の課題を与え、継続して学習に取り組ませる。</li> <li>・地域から期待されていることを自覚させ、基礎学力を定着させる。</li> <li>・研修会の実施や研究授業や公開授業、研究協議会への積極的参加を推進していきたい。</li> <li>・対話的な学習の充実を通して「わかる授業」を実践し、基礎学力の定着を図りたい。</li> <li>・年間に2回実施される授業アンケートの結果を踏まえ、職員全体や各教科で教材研究や授業改善の検討を行った。今後ルーブリック等のツールを活用し、授業実践におけるPDCAサイクルの確立に努めたい。</li> <li>・図書館利用者数の増加に対応して利用マナーの向上を図りたい。</li> </ul>
エ	<p>コース制、進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善点の検討を経て新教育課程が確立する。</li> <li>・進路に必要な学力が身に付く。</li> <li>・就職希望者の年内内定率 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度入学生の教育課程を変更し、コースの改定を行った。</li> <li>・令和4年度入学生の教育課程について検討した。</li> <li>・3年間の進路計画の改定を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領について研究するとともに本校にとって何が必要かを議論することができた。</li> <li>・基礎学力テストの効果的な活用を検討、推進する。</li> <li>・インターンシップや進路</li> </ul>

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識が向上し、望ましい職業観が育つ。</li> <li>・外部機関の活用・支援が充実する。</li> <li>・資格の取得が進む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を意識した学習記録表を作成した。</li> <li>・1年次におけるインターシップの実施等、早期からの進路意識の向上に心掛けた。</li> <li>・年内内定率 H30 (100%) R1 (96%)</li> <li>・地域の大学や商工会、職業訓練センター等との連携に取り組んだ。</li> <li>・フォークリフト技能講習を実施した。</li> </ul>		<p>ガイダンスを活用し、進路意識の向上につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湖西地域職業訓練センター等と連携し、在学職業訓練と免許取得を継続して推奨し、自己啓発と進路実現につなげる。</li> </ul>
オ	部活動、特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と顧問との信頼関係が深まり、部活動の定着率の高さが維持される。</li> <li>・部活動に参加したことにより、人間的に成長できたと答える生徒 90%以上</li> <li>・部活動と学業との両立ができていると答える生徒 80%以上</li> <li>・生徒会を中心に委員会活動において生徒の主体的な運営場面が増える。</li> <li>・集団への所属感、連帯感が深まり、公共心が育つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧問の適正配置と支援制度の活用による部活動指導体制の充実に取り組んだ。</li> <li>・部活動を通じた健全な生活態度の育成に努めた。</li> <li>・生徒会活動への自主的、実践的な取り組みを推進した。</li> <li>・学校行事の活性化に取り組んだ。</li> <li>・部活動で人間的に成長できた。R1 (82%)</li> <li>・部活動と学業との両立ができている。R1 (79%)</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部活動顧問が主体的に活動できている。</li> <li>・部活動を通して健全な生活態度の育成に努めるとともに、学業との両立を推進していく</li> <li>・ボート部が国体全国大会(優勝)、東海総合体育大会に出場するなど、ボート部の活躍が目立った。</li> </ul>
カ	保護者や地域社会から信頼される、効果的かつ効率的な学校経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務処理に掛かる時間が減少する。</li> <li>・教育活動が円滑化し、保護者からの信頼が深まる。</li> <li>・学校は相談に適切に対応していると答える保護者 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NESの掲示板、メールを活用し、公務に関する事務処理の簡素化・効率化に努めた。</li> <li>・実効性のある予算編成と執行に努めた。</li> <li>・経営予算の見直しを年3回行った。</li> <li>・リレー研修を年1回実施した。</li> <li>・「適切に対応している」と答える保護者 H30(85%) R1 (90%)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、保護者への丁寧な対応により、校納金の早期完納に努める。</li> <li>・NESの掲示板、メールの使用が日常化し、情報伝達が効率的かつ有効にできている。</li> </ul>

様式第3号

キ	<p>他校種との交流及び保護者・地域等との連携の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い学校間のつながりができ、他校種の優れた取組が本校に反映される。</li> <li>学校の様子が保護者や地域にタイムリーに伝わる。</li> <li>メール配信登録率80%</li> <li>「あらぼん」が地域に親しまれる活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育体験実習や特別支援学校との交流に取り組んだ。</li> <li>湖西市内の幼・小・中・特別支援学校の生徒・教員との交流に取り組んだ。</li> <li>家庭と学校間の緊密な情報交換に努めた。</li> <li>公開授業、メール配信（登録率H30(68%) R1(92%)、ホームページの内容の充実、メディアへの取材依頼等、広報活動に努めた。</li> <li>新居高キャラクター「あらぼん」を活用した。</li> <li>中学生一日体験入学において体験授業に加えて「先輩と語る会」を実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会、吹奏楽部、書道部、美術部、応援委員会等による校外での行事参加が増加しているので、引き続き活動の場を増やしていきたい。</li> <li>日常的にHPにて学校の様子を保護者・中学生・地域等に発信することで、本校の教育活動が広く理解された。</li> <li>より効果的な伝達手段とするため、メール配信システムの変更を行った結果、配信数や登録者数が増加した。</li> <li>引き続き中学生一日体験入学の内容を充実させる。</li> </ul>
ク	<p>自己肯定感の向上、人権感覚の涵養</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの人から認められていると感じる生徒が増加する。</li> <li>自分や周囲の人のよさに気付き、互いに認め合うことができる生徒が育つ。</li> <li>将来の目標を語る生徒が増加する。</li> <li>アンケート「私は一人の大切な人間である」において肯定意見80%以上</li> <li>90%以上の職員が提出物の期限を守っている。</li> <li>90%以上の職員が会議の開始時刻を守っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のよさに着目した全職員による生徒への声かけに努めた。</li> <li>自己肯定感アンケート H30(86%) R1(87%)</li> <li>学校行事の振り返りを通して、生徒相互の承認文化の形成に努めた。</li> <li>将来の目標を意識した教育活動の充実に取り組んだ。</li> <li>従来のポートフォリオに加えて、学びのループリックを実施した。</li> <li>職員の提出物期限順守。R1(95%)</li> <li>職員の会議開始時刻順守。R1(93%)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の課題として「目的意識の弱さ」「自分への信頼の低さ」「学習習慣の欠如」の3つがあげられる。そこで教員側の取組として、授業力向上週間等で生徒への積極的な「声掛け」を実践するよう努めた。</li> <li>生徒自身が目標や実績を管理するとともに、担任が状況を把握できるよう工夫した。</li> <li>人権教育研究指定は終了したが、引き続き学校における教育活動全般で人権を意識していく。</li> </ul>